

表現メディアコース便り *Media Studies Course*

表現メディアコースには、翻訳者・ジャーナリスト・CM制作・広告会社などを目指すあなたに適した講義があります。

表現メディアコースの先生を紹介します。 来年度「感性コミュニケーション論」を担当する原田範行先生です。

原田範行(はらだのりゆき)先生は、今年の春に『クック南半球周航記』(上・下)を岩波書店から翻訳出版されました。

クック(James Cook 1728-79)とは、18世紀のイギリス人探検家のことです。イギリス海軍の仕官としてタヒチ、ニュージーランド、オーストラリアなど南太平洋地域を探検調査しました。

クックは初めてハワイ諸島に足を踏み入れたヨーロッパ人でもあります。

『クック南半球周航記』は、クックの第2回目の航海の軌跡を、彼が毎日自ら記した航海日誌の**手稿の全訳**を通じて紹介しています。



原田先生は、イギリス18世紀文学研究者として優れているだけではなく、英語の達人でもあります。

『クック南半球周航記』を**手稿**から訳したというのは、イギリス人も読みづらいような手書きの英語を解読・翻訳したということです。(!)

外国語学部応用コミュニケーション学科

2006年9月21日

9名の担当教員

JoAnn Parochetti

Peter MCMillan

伊藤 盡

楠家 重敏

黒田 有子

原田 範行

長谷川 弘子

吉村 ケイ子

渡辺 光恵



*順次ご紹介します。

発行人 長谷川弘子

毎日新聞9月17日(日)朝刊に 「南半球周航記」の書評が掲載されました。

書評では『スコットランド西方諸島の旅』(サミュエル・ジョンソン著 諏訪部仁ほか訳 中央大学出版)と共に、原田先生の『クック南半球周航記』が取り上げられています。

そして、18世紀ヨーロッパ文明の核心を<旅>に置くとすると、サミュエル・ジョンソンのスコットランド旅行記とクックの航海記には、その

核心につながる「なにか」があるという指摘がされています。

それは、なによりも「博士も船長も自分たちのそれとは異なる地理、風土、人間、文化と向い合うことになっている」点に読み取れるとのこと。18世紀のヨーロッパの<旅>には、どのような意味があったのでしょうか? [書評\(裏面\)](#)を読んでみてください。(HH)

